

## 図20. 患者調査・医療施設調査等の方向性

1. 疾病別受療率、職員数等の悉皆性、正確性が求められるデータとしての優位性を持つ
2. 一方、地域医療構想に求められる、診療機能、診療圏等の情報に劣る
3. 他の医療データの充実により、患者調査・医療施設調査の優位性が失われつつある

### 患者調査等の今後の可能性

悉皆性、正確性を担保する基礎調査としての位置づけを明確にし、堅実な調査を維持する

or

他の医療データを効率的に活用し、多機能データとして充実を図る

地域に求められる医療機能と医療提供体制の変化に対応した  
医療施設調査、患者調査のあり方とその評価・分析手法に関する  
研究

(H25—統計—一般—006)

○研究の概要

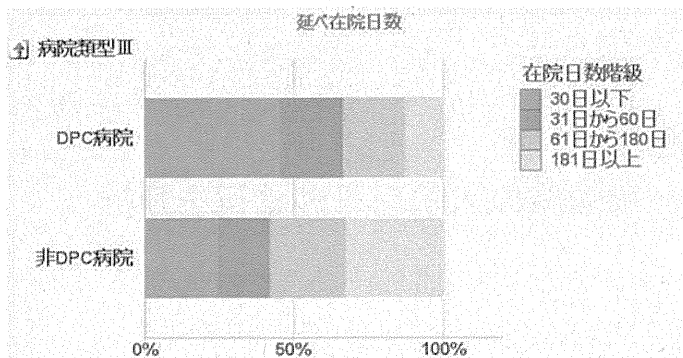
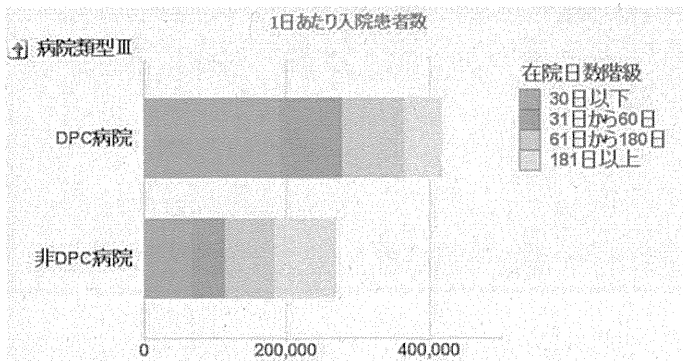
- 患者調査、医療施設調査個票を利用
- DPC病院と非DPC病院の一般病床の入院患者の状況を分析

DPC病院と非DPC病院の一般病床の  
基本的な機能の相違に関する分析

	1日あたり 入院患者数	1ヶ月あたり 退院患者数	平均 在院日数	平均年齢
非DPC病院	269,072	291,541	27.7	65.2
DPC病院	418,143	776,461	16.2	59.0

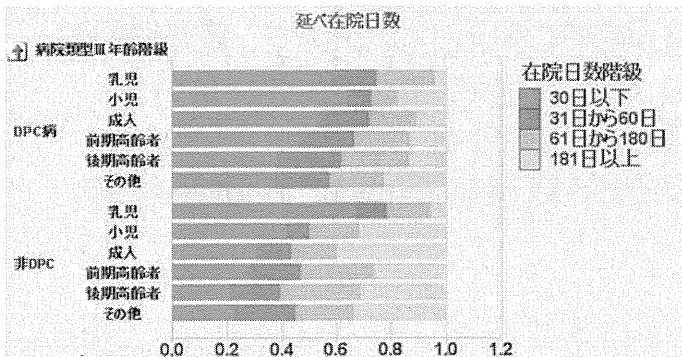
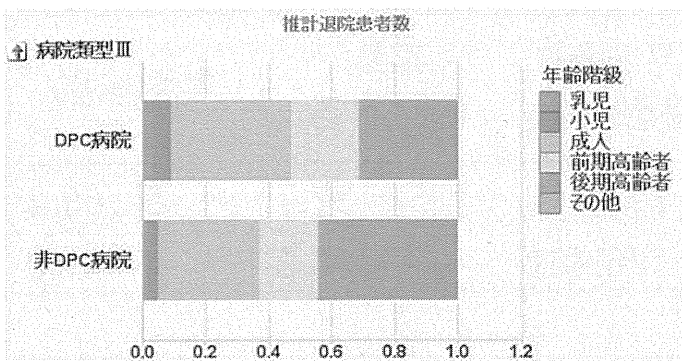
- DPC病院とそれ以外の病院(非DPC病院)について、患者調査退院票を集計し、それぞれの入院患者の特性の違いを分析
- 一般病床の約3分の2をDPC病院が占める
- 非DPC病院では、平均在院日数が11日程度長く、入院患者の平均年齢が6歳程度高い

## DPC病院と非DPC病院の一般病床の 在院日数階級別患者数



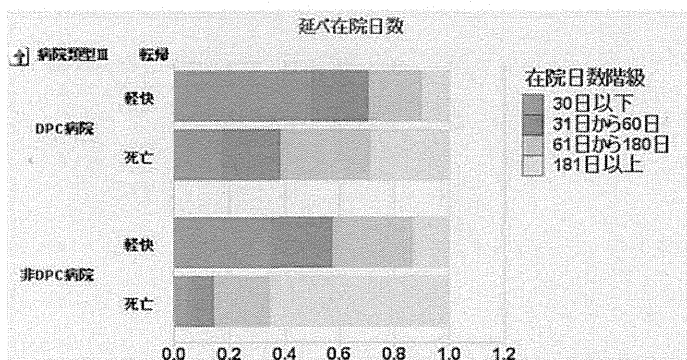
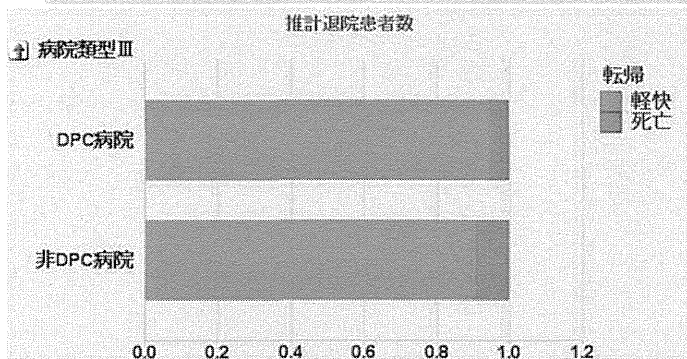
- 非DPC病院では在院患者の過半数が在院日数61日以上
- 非DPC病院の在院患者の4分の1は30日以下の短期入院

## DPC病院と非DPC病院の一般病床の 年齢構成の相違



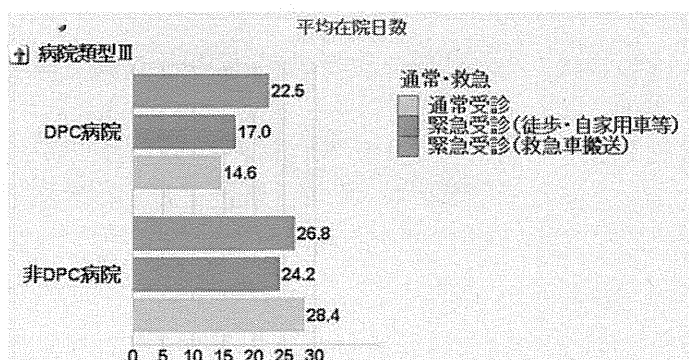
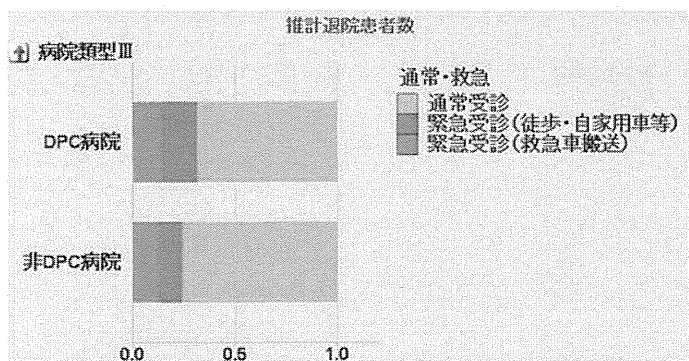
- 非DPC病院では高齢者の退院患者がやや多い
- 非DPC病院では、年齢に関係なく長期入院患者が多い

## DPC病院と非DPC病院の一般病床の死亡患者の状況



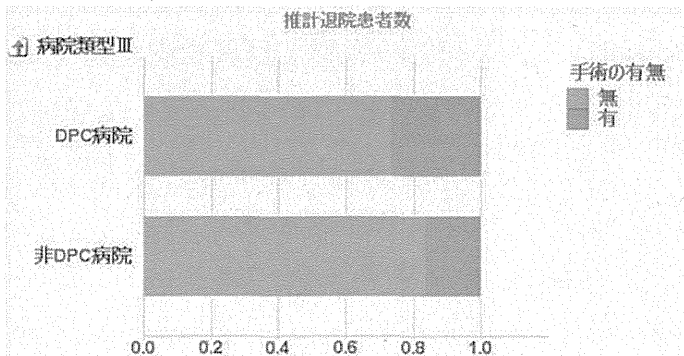
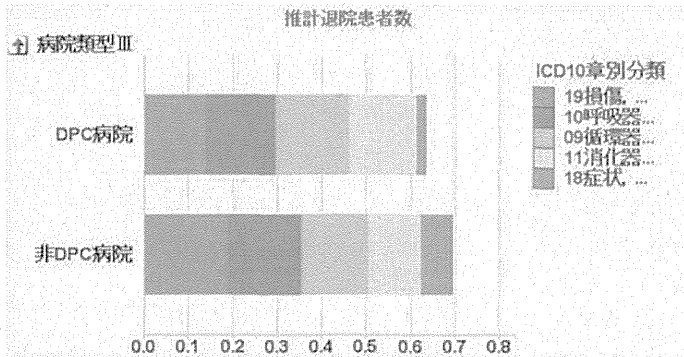
- 非DPC病院では死亡退院患者がやや多い
- 非DPC病院では、長期入院患者の死亡患者が非常に多い

## DPC病院と非DPC病院の一般病床の救急患者の状況



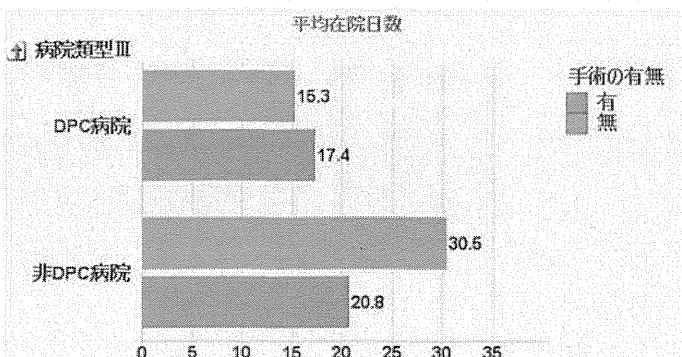
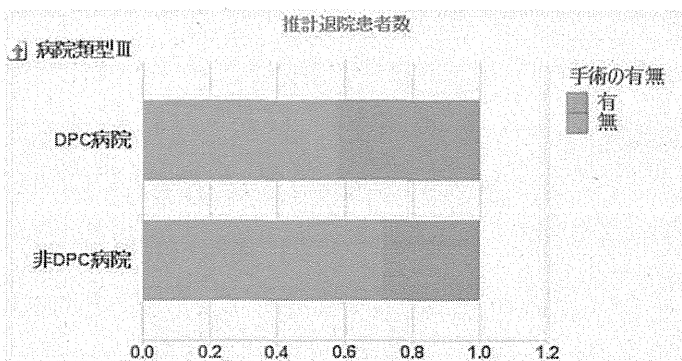
- 非DPC病院でも一定数の救急患者を診ている
- 非DPC病院の救急患者の平均在院日数は、DPC病院とあまり変わらない

## DPC病院と非DPC病院の一般病床の救急患者の詳細



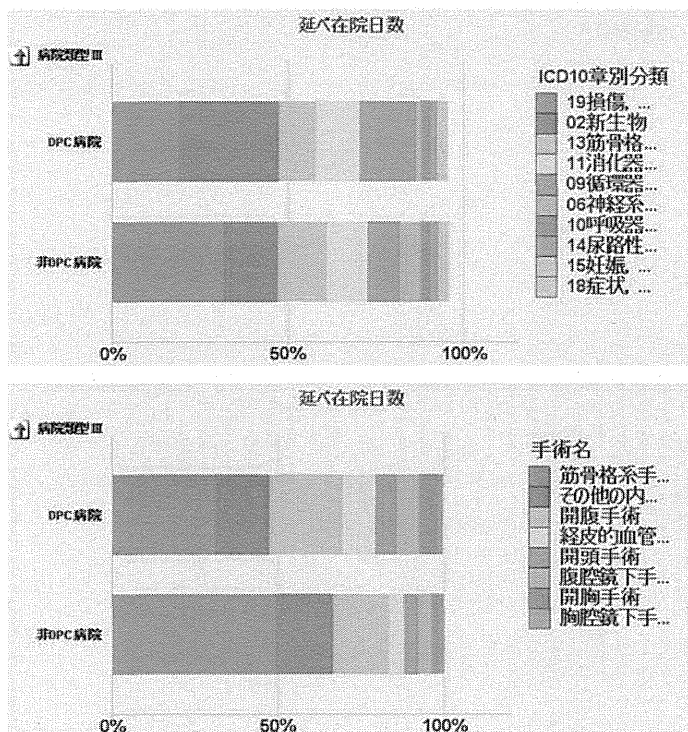
- 非DPC病院の救急入院患者は外傷の患者がやや多い
- 非DPC病院の救急患者の一定数は手術が必要な急性期の患者である

## DPC病院と非DPC病院の一般病床の手術患者



- 非DPC病院の手術患者の割合はやや少ない
- 非DPC病院の手術患者の在院日数はDPC病院とあまり変わらない

## DPC病院と非DPC病院の一般病床の手術の内容



- 非DPC病院では、外傷、整形外科の手術が多い
- 非DPC病院では整形外科系の手術が多い

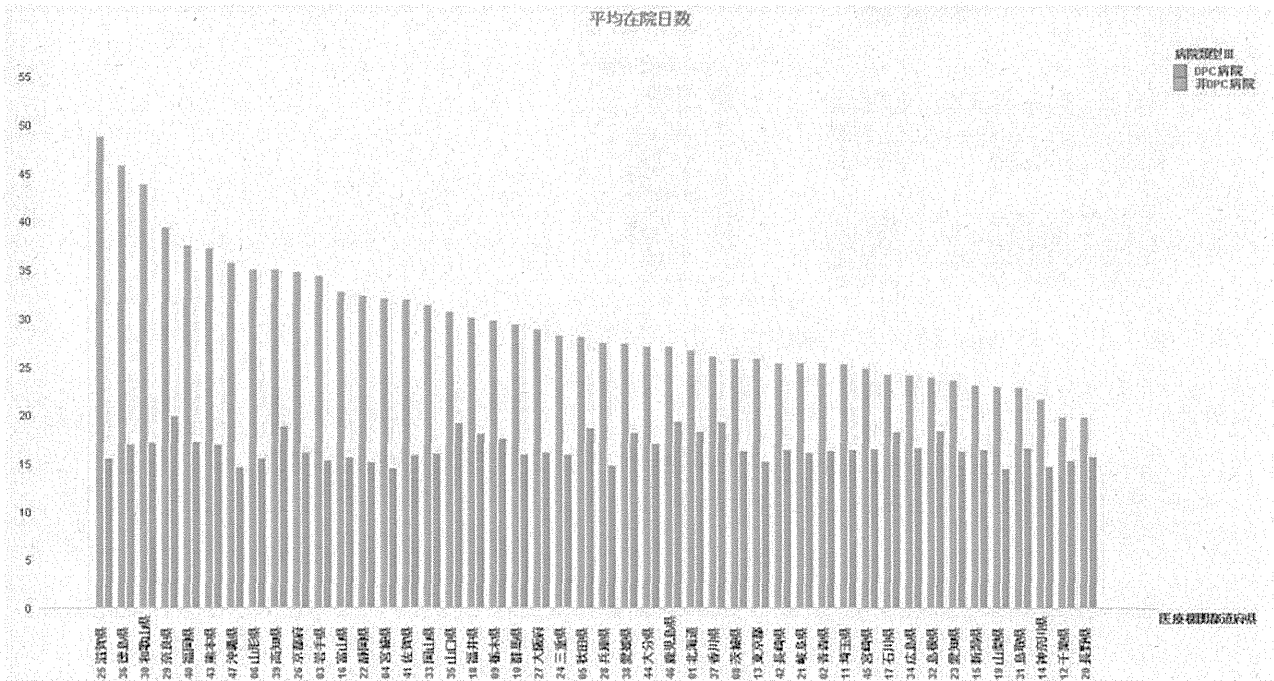
## 非DPC病院の一般病床の特徴

1. 長期入院患者が多い
2. 長期入院患者は高齢者に限らない
3. 長期入院患者の死亡が多い
4. 一定数の救急入院患者、手術患者があり、外傷が多い
5. 救急入院患者の在院日数、手術割合、手術患者の在院日数はDPC病院とあまり変わらない

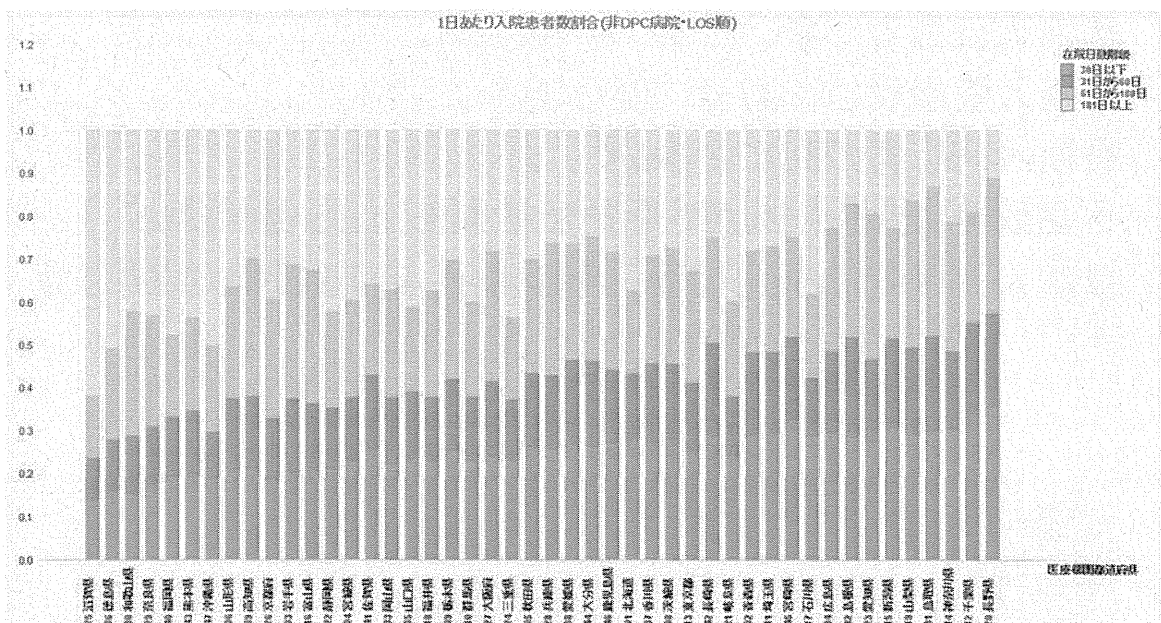


非DPC病院の一般病床には、外傷、救急を中心とした急性期機能と死亡までの長期入院を担う慢性期機能が混在している

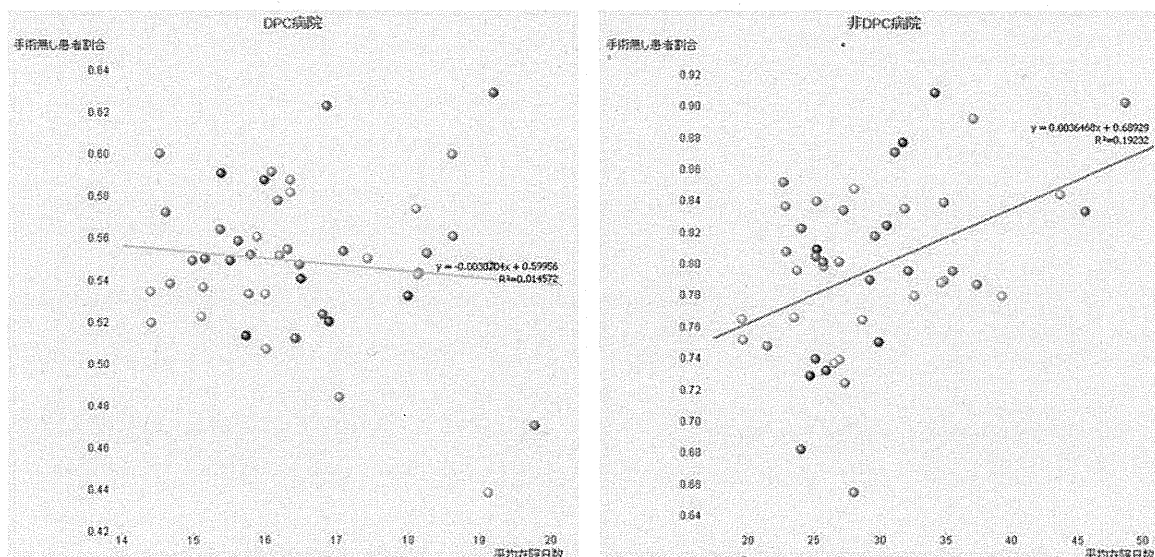
# DPC病院と非DPC病院の一般病床の 都道府県別平均在院日数に関する分析



# DPC病院と非DPC病院の一般病床の 都道府県別平均在院日数に関する分析



## DPC病院と非DPC病院の一般病床の 都道府県別平均在院日数と手術なし患者割合



## 非DPC病院の一般病床の地域差

1. 都道府県別の平均在院日数が2倍以上異なる
2. 都道府県別の平均在院日数は、手術を必要としない患者の割合（急性期患者の割合）と弱い正の関係がある



- 非DPC病院の一般病床の急性期機能と慢性期機能の混在状況は、都道府県によって大きく異なる
- 一般病床の機能分化の向かうべき方向は、都道府県によって大きく異なる可能性がある



地域に求められる医療機能と医療提供体制の変化に対応した  
医療施設調査、患者調査のあり方とその評価・分析手法に関する  
研究

(H25—統計—一般—006)

東京医科歯科大学大学院  
医療政策学講座医療政策情報学分野  
伏見清秀

## 背景と目的

- 平成37年に向けた医療提供体制のあり方の議論において、高度急性期、急性期、亜急性期、地域一般等の病床機能分化が想定されているが、これらの病床群の機能評価手法、調査手法等は今後の重要な検討課題となっている。
- 地域の患者動態と医療ニーズの定量的な評価に適している医療施設調査、患者調査等と公表されているDPCデータを補完的に用いて、高度急性期から亜急性期を含めた地域医療提供体制の全体像を把握することが期待できる。
- 本研究では、悉皆性を有する医療施設調査、患者調査データを用いて、変化しつつある地域医療の実態と地域で必要とされる医療機能を明かとする手法を示すとともに、他の調査との整合性を持たせながら病床機能を含めた地域医療提供体制の評価につながる統計調査のあり方を示すことを目的とした。

## 方法

- 患者調査個票と公表されている個々のDPC病院のデータを用いて、都道府県単位のDPC病院と非DPC病院の一般病床入院患者数を把握し、年齢構成、平均在院日数、傷病構造、救急の状況等を分析した。医療施設調査を併せて使用して、個別医療機関ごとの機能の違いの評価手法を検討した。
- これらの分析から、高度急性期、急性期、亜急性期、慢性期を特徴付ける医療機能を明かとする手法を検討した。傷病構造、診療密度、在院日数、移動、連携、救急等の情報が関連する可能性があるため、研究申請者らが既存研究で示した手法を応用して、統計データよりこれらに関連する指標を作成する手法を検討した。

### 結果1. 一般病床の機能別患者データベースの構築

- 医療施設静態調査病院票と患者調査退院票の医療施設二次医療圏、病床規模、開設者等の情報とDPC病院公表集計データより、DPC病院、非DPC病院別に平均在院日数、傷病名、救急の状況、年齢構成、手術の状況等を含む一般病床退院患者データベースを構築し、Qliktech社Qlikviewにてインメモリー多次元集計分析を実行できる分析ツールを作成した。